

現場で実践！

『部下ノート』活用の手引き

～“部下に学べる”上司には 自ずと結果もついてくる～

人事政策研究所 代表 望月 禎彦

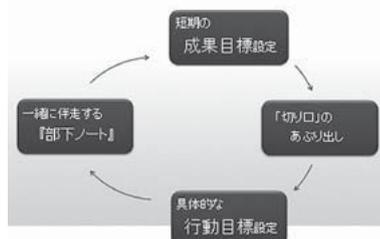
●「関係力」を身につけるために

幹部が成果を上げ続けていくためには、3つの力が必要です。
①行動力 ②思考力 ③関係力 の3つを節目節目で身につけていくことが重要です。このうち①と②は、自分自身がその気になって、コツコツと修練していけば、必ず力がつきますが、③の「関係力」は違います。

人と人との関係性ですから、自分自身はやった『つもり』ですが、周囲から見ると『そうは見えない』、ということが多いわけです。



この「関係力」の習得に最も効果があるのが、今回お勧めする『部下ノート』です。部下とじっくり話し込みをして成果目標と行動目標をつくり、その途中結果を『部下ノート』に記録していきます。すなわち右のようなPDCAサイクルを回すことで、部下には目標達成を、上司自身には関係力向上をもたらすツールです。その『部下ノート』の活用法をご紹介します。



目次

- 1 『部下ノート』とはどんなものか／そのルーツ
- 2 『部下ノート』の効果・効用
- 3 『部下ノート』の書き方
- 4 『部下ノート』成長の記録①
- 5 『部下ノート』成長の記録②
- 6 『部下ノート』と併せて実行したい
→行動改善コーチング
- 7 『部下ノート』と併せて実行したい
→部下へのタイプ別対応
- 8 『部下ノート』と併せて実行したい
→部下の話の聴き方
- 9 『部下ノート』と併せて実行したい
→部下への質問の仕方
- 10 『部下ノート』まとめ



●望月 禎彦 (もちつき よしひこ)

1960年生まれ。立教大学卒業後、ユニ・チャーム株式会社に営業を経験後、人事部にて採用、研修の実務を経験。92年独立。支援先を中堅企業に絞り、支援先企業が人事政策面で1人立ちできるよう徹底的に指導するのが特徴。「行動」をベースにした独自の理論を駆使し、「出来る人」を着実に増やし、成果につなげる。実際の支援先は20年間で300社を超える。2000年には、そのノウハウを結実させたソフトウェア『コンピテンシーマスター』を、2010年には、人事評価ASPシステム『コンピリーダー』を開発し、ユーザー数は累計2,000企業にのぼる。その導入先は上海、台湾にも及んでいる。また講演では、コンスタントに年間1,000名超の経営者/マネージャーに実践ノウハウを提供。2011年には、20年間のノウハウを体系的に提供する塾形式の『望月人事クラブ』を主宰し、全国各地に『できる人を増やす』活動を推進している。近著に『なぜあの会社の社員は、「生産性」が高いのか？』（フォレスト出版）、『部下ノート』がすべてを解決する』（アスコム）など。
人事政策研究所 〒146-0085 東京都大田区久が原6-8-19 TEL：03-5700-6830 URL：http://www.jinji-k.co.jp